

「ドンドン語ろう！」中央区（令和元年（2019年）5月24日 市庁舎14階大ホール） ご意見用紙提出分 参加者：65名

No.	ご意見	回答	局	担当課
1	<p>■交通について</p> <p>熊本市都市圏の交通は、事業者を知らないと時刻検索ができない。20年前からまったく変化がない。もしその理由の一つが事業者の乱立にあるなら、効率化と市街地のバス台数削減のためにも事業者をまとめてほしい。</p> <p>市として、交通手段の軸を何にしたいのか全く見えない。個人的には、それを市電にすべきと考えるので、各計画はそれを念頭に置いて策定してほしい。</p> <p>そのため、</p> <p>①市電の1車両あたりの乗員人数を増やせるように車内改装（通勤学用車両があつて良い）。また、2両編成を増やす。電停改良をスピード感をもつて（特に花畑町）。</p> <p>②交通局採用の非正規職員の待遇向上。勤続年数の延長。</p>	<p>【交通政策課】</p> <p>利便性の高いバス路線網の再編や運行体制の効率化などについては、平成31年3月にバス事業者・県・市からなる「熊本におけるバス交通のあり方検討会」を発足し、バス事業者と一体となって、検討を進めているところ。</p> <p>なお、平成31年4月より運用を開始したバスロケーションシステム「バスきたくまさん」では、時刻を含めたバスの運行情報（接近情報）を、バス事業者にかかわらずバス停ごとにお知らせしている。</p> <p>【交通局運行管理課】</p> <p>①市電の輸送力向上については、故障で休車していた低床車両（2両編成）を修理し、今年10月1日から運行再開いたしました。また、座席がクロスシート（車両の進行方向を向いて座る1人掛け用の座席）である車両を、ロングシート（車両の左右側窓を背にして座る長いベンチ座席）へ改修し、車両の定員数を増やすことを計画している。</p> <p>今後も、輸送力向上やバリアフリーの観点から、低床車両の導入に向けて検討していく。</p> <p>また、電停改良については、平成21年度に策定した電停改良計画に基づき、整備条件が整った電停から順次改良を進めており、本年度は、「河原町」と「通町筋（下通側）」を実施しているところである。</p> <p>電停改良を実施するにあたっては、新たな用地が必要となったり、交通処理協議など様々な課題もあるが、今後も沿線権利者のご理解や関係機関と協議を行いながら早期整備に努めていく。</p> <p>【交通局総務課】</p> <p>②交通局非正規職員の処遇改善等については、安全・安心な市電の運行を行ううえでも必要であると考えており、その見直し作業を市電の利便性や機能向上策の検討と併せ現在進めている状況である。</p>	<p>都市建設局</p> <p>交通局</p> <p>交通局</p>	<p>交通政策課</p> <p>運行管理課</p> <p>総務課</p>